

学年	3	コース等	文系	教科	国語	科目	論理国語 文学国語	単位数	3
使用教科書（発行所名）		論理国語（大修館書店） 新文学国語（三省堂）							
補助教材等		現代文キーワード読解（Z会編集部）、語彙＋漢字２０００（筑摩書房）							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

（２）論理的、批判的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査 - 授業での成果物（記述したもの） - 小テスト	- 定期考査 - 授業での成果物（記述したもの）	- 課題への取り組み状況 - 授業への取り組み状況

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学期	4	人はなぜ贈与するのか	4	対比関係を意識して読みながら、「贈与」という行為の意義を確認し、さらに人間のあり方について考えを深める。	- 文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 - 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。
		「贈り物」としてのノブレス・オブリージュ	3	「人はなぜ贈与するのか」と比較しながら、「贈り物」についての筆者の主張を読み取る。	- 文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 - 関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。
	5	鞆	4	「鞆」に対する「私」の考え方の変化を確認したうえで、「鞆」の象徴的意味について考え、文章にまとめる。	- 人間、社会に対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と紅葉について理解を深めている。 - 文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察することができている。
		「である」ことと「する」こと	5	対比的な概念や具体例の意図を捉えながら筆者の主張を読み取ったうえで、「自由」という視点から日本の近代についての考えを深める。	- 文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 - 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。
	6	文学の未来	3	文学作品・テキストと読者の関係について理解し、「文学」という営為について、自分がどのように関わっていくか考える。	- 人間、社会に対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と紅葉について理解を深めている。 - 作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。
		政治を支える心構え	3	政治についての歴史的経緯、現状の分析を読み取り、大衆社会における政治のあり方について考えを深める。	- 文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 - 関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。
	7	「虫めづる姫君」の観察眼	4	筆者のものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、古典文学の価値やそれを世界に発信する意義について自分の意見を持つ。	- 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 - 読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫することができている。
		リスク社会としての現代	4	概念の定義をおさえて、筆者の問題意識をとらえるとともに、現代社会が直面する課題について自身の問いを深める。	- 学術的な学習の基礎を学ぶために必要な語句の量を増やすことができた。 - 人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。
2 学期	9	猫は後悔するか	3	論理の展開に注意しながら筆者の主張を読み取り、現実世界を認識するうえでの言語の役割を理解する。	- 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解できた。 - 主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができた。
		言語と他者	4	筆者の論の展開の仕方に注意して読み、言語と世界の関係や言語と他者の関係について考えを深める。	- 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解できた。 - 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握できている。
		卵を抱きながら。もしくは、くせになる翻訳	2	文学翻訳者の意識や考え方を捉え、異文化との交流の意義について考えを深める。	- ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 - 自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。
	10	近代以降の文章の問題演習（記述問題）	10	- 文章の内容を多面的・多角的な視点から解釈したり、目的や場面に応じて情報を的確に理解したり、より効果的な表現に向けて検討したり工夫したりする力を身に付ける。 - 文体の特徴、語り手の視点、場面設定、文章の構成と展開、登場人物の言動、情景描写などから作品を解釈、評価する。	- 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。 - 複数のテキストの情報を的確に理解し、その妥当性や信頼性を吟味し内容を解釈している。 - 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 - 文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。
	11	近代以降の文章の問題演習（記述問題・マーク）	10	- 説明文や報告文などのテキストを図表と関連付けながら的確に読み取る。 - 複数の文章や図表の内容や要旨を適切に解釈できるようにする。 - レポートの作成などの想定される言語活動に向けてテキストを適切に解釈したり、内容や構成について検討したりすることができるようにする。	- 文章で示された内容と、図表で示された内容について多角的に検討し、よりの確に捉えたり、それぞれ異なる形式で示された内容についての妥当性や差異等が理解できている。 - 内容や論理の展開について適切に評価できている。 - データを適切に解釈し、レポート作成などの言語活動の展開に即して表現の工夫に役立てることができる。
	12	近代以降の文章の問題演習（共通テスト・実用的文章）	10	- 説明文や報告文などのテキストを図表と関連付けながら的確に読み取る。 - 複数の文章や図表の内容や要旨を適切に解釈できるようにする。 - レポートの作成などの想定される言語活動に向けてテキストを適切に解釈したり、内容や構成について検討したりすることができるようにする。	- 文章で示された内容と、図表で示された内容について多角的に検討し、よりの確に捉えたり、それぞれ異なる形式で示された内容についての妥当性や差異等が理解できている。 - 内容や論理の展開について適切に評価できている。 - データを適切に解釈し、レポート作成などの言語活動の展開に即して表現の工夫に役立てることができる。
3 学期	1	近代以降の文章の問題演習	24	- 文章の内容を多面的・多角的な視点から解釈したり、目的や場面に応じて情報を的確に理解したり、より効果的な表現に向けて検討したり工夫したりする力を身に付ける。 - 文体の特徴、語り手の視点、場面設定、文章の構成と展開、登場人物の言動、情景描写などから作品を解釈、評価する。	- 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。 - 複数のテキストの情報を的確に理解し、その妥当性や信頼性を吟味し内容を解釈している。 - 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 - 文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。
	2				
	3				

学年	3	コース等	理系	教科	国語	科目	論理国語	単位数	2
使用教科書（発行所名）		論理国語（大修館書店）							
補助教材等		現代文キーワード読解（Z会編集部）、語彙＋漢字2000（筑摩書房）							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

1. 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
2. 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	・ 定期考査 ・ 授業での成果物（記述したもの） ・ 小テスト	・ 定期考査 ・ 授業での成果物（記述したもの）	・ 課題への取り組み状況 ・ 授業への取り組み状況

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学 期	4	人はなぜ贈与するのか	4	対比関係を意識して読みながら、「贈与」という行為の意義を確認し、さらに人間のあり方について考えを深める。	・文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらか要旨を把握することができている。
	5	「贈り物」としてのノブレス・オブリージュ	3	「人はなぜ贈与するのか」と比較しながら、「贈り物」についての筆者の主張を読み取る。	・文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。
		「である」ことと「する」こと	5	対比的な概念や具体例の意図を捉えながら筆者の主張を読み取ったうえで、「自由」という視点から日本の近代についての考えを深める。	・文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらか要旨を把握することができている。
	6	政治を支える心構え	3	政治についての歴史的経緯、現状の分析を読み取り、大衆社会における政治のあり方について考えを深める。	・文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 ・関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。
		対立した意見をふまえて書く	4	今日の社会的問題について、対立した意見を分析、吟味したうえで、根拠を明確にしながらか自分の考えを記述する。	・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めることができている。 ・立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができている。
	7	リスク社会としての現代	4	概念の定義を押さえて、筆者の問題意識をとらえるとともに、現代社会が直面する課題について自身の問いを深める。	・学術的な学習の基礎を学ぶために必要な語句の量を増やすことができた。 ・人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。
2 学 期	9	猫は後悔するか	4	論理の展開に注意しながら筆者の主張を読み取り、現実世界を認識する上での言語の役割を理解する。	・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解できた。 ・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができた。
		言語と他者	4	筆者の論の展開の仕方に注意して読み、言語と世界の関係や言語と他者の関係について考えを深める。	・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解できた。 ・内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらか要旨を把握できている。
	10	問題演習 (実用文・図表)	6	・説明文や報告文などのテキストを図表と関連付けながら的確に読み取る。 ・複数の文章や図表の内容や要旨を適切に解釈できるようにする。 ・レポートの作成などの想定される言語活動に向けてテキストを適切に解釈したり、内容や構成について検討したりすることができるようにする。	・文章で示された内容と、図表で示された内容について多角的に検討し、よりの確に捉えたり、それぞれ異なる形式で示された内容についての妥当性や差異等が理解できている。 ・内容や論理の展開について適切に評価できている。 ・データを適切に解釈し、レポート作成などの言語活動の展開に即して表現の工夫に役立てることができている。
	11	問題演習 (共通テスト対策)	8	近代以降の文章について、文章の内容を多面的・多角的な視点から解釈したり、目的や場面に応じて情報を的確に理解したり、より効果的な表現に向けて検討、工夫したりすることができるようにする。	・内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらか要旨を把握している。 ・複数のテキストの情報を的確に理解し、その妥当性や信頼性を吟味し内容を解釈している。 ・言語活動を通して言葉による表現をする際に、よりよい表現に向けて検討したり工夫したりしている。
	12		7		
3 学 期	1		5		
	2				
	3				

学年	3	コース等	文系・理系	教科	国語	科目	古典探究	単位数	3
使用教科書（発行所名）	古典探究（古文編） 大修館書店 古典探究（漢文編） 大修館書店								
補助教材等	読解をたいせつにする体系古典文法 九訂版（数研出版） 構造から読み解くこれからの漢文 修訂二版（尚文出版） さくらさく古文単語（浜島書店）								

1. 教科・科目の目標（学習目標）

①生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技術を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。 ②論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 ③言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとすることができる。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めている。	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わる態度を養おうとしている。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査 - 小テスト - 日々の課題・週末課題等	- 定期考査 - 小テスト - 日々の課題・週末課題等	- 授業へ向かう態度（観察） - 課題への取り組み状況 - 予習ノートの作成状況

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学期	4	更級日記「門出」	3	・古語の意味や和歌について学び、その知識を生かして和歌を読解・鑑賞するとともに、全体の内容を的確に捉える。	・古語の意味や和歌について学び、その知識を生かして和歌を読解・鑑賞するとともに、全体の内容を的確に捉えることができる。
		「蜻蛉日記」町の小路の女	4	・平安貴族の生活、行事、文化などについて理解を深める。	・平安貴族の生活、行事、文化などについて理解を深め、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
	5	思想「論語」 ・賢哉回也・聞斯行諸	3	・漢文の語句や句法を理解し、書き下し文にしたり、現代語訳したりする。 ・「論語」や「性善説」、「性悪説」をもとに儒家の思想について理解する。	・漢文の語句や句法を理解し、書き下し文にしたり、現代語訳したりすることができる。 ・「論語」や「性善説」、「性悪説」をもとに儒家の思想について理解し、思想の共通点や相違点について自分の考えを論述することができる。
	6	忠孝「孟子」 ・不忍人之心 「荀子」・人之性悪 「韓非子」・侵官之害	5	・「韓非子」や「信賞必罰」といった法家の思想について理解する。	
	7	「源氏物語」 紫の上の死 中世・近世の歌論	6	・古語の意味や文法、敬語について学び、その知識を生かして現代語訳し、内容を的確に捉える。 ・物語や歌論を読んで、登場人物の行動や心情を展開に即して読みとり、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができる。	・古語の意味や文法、敬語について学び、その知識を生かして現代語訳し、内容を的確に捉えることができる。 ・物語を読んで、登場人物の行動や心情を展開に即して読みとり、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができる。
2 学期	9	史伝『史記』 風蕭蕭として易水寒し 図窮まりて匕首見る 古体詩と近体詩	6	・漢文の語句や句法を理解し、書き下し文にしたり、現代語訳したりする。 ・「史記」執筆の背景や列伝をとりまく主題について理解を深める。	・漢文の語句や句法を理解し、書き下し文にしたり、現代語訳したりすることができる。 ・「史記」執筆の背景や列伝をとりまく主題について理解を深め、その内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができる。
	10	古典問題演習（記述問題）	10		
	11	古典問題演習（記述問題・マーク）	10		
	12	古典問題演習（記述問題・マーク）	10		
3 学期	1	古典問題演習	24		
	2				
	3				

学年	3	コース等	文系	教科	地理歴史	科目	地理総合	単位数	2
使用教科書（発行所名）	新詳地理探究（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）								
補助教材等	なし								

1. 教科・科目の目標（学習目標）

・地理に関わる諸事象に関し、世界の生活文化の多様性や、地球的課題への取組を理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、様々な情報を効果的にまとめる技能を身に付ける。・地理に関わる事象の意味、特色や関連を、位置や分布、人間や空間との相互関係などに着目して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を養う。・地理に関わる諸事象について、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養い、日本国民としての自覚、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「知識」に関しては、学習するそれぞれの内容についての基本的な概念や原理・法則などを理解している。「技能」に関しては、事象を地図化する技能や問題発見・解決の過程を自立的に遂行できるようにするために、その基礎となる技能を身につけたか。	・位置や分布の規則性を見だし、分布の規則性、傾向性を示す要因を考える。・場所の地域的特色を明らかにし、他の地域との比較により特殊性と一般性を探る。・自然からの制約とそれに対応した伝統的生活様式、自然環境への働きかけと自然環境の改変を明らかにし、地域の環境開発や環境保全の在り方を考える。・分布のパターンからどのような一般的な共通性の下、場所の特徴からどのような地域的特殊性を持ち、人々の生活と自然環境がどのように関わり、他地域とどのように結び付き、それらがどのように変容しながら、現在の地域が形成されたかを考察する。	・地理的な課題を主体的に追究、解決しようとする態度。 ・日本国民としての自覚。 ・我が国の国土に対する愛情。 ・世界の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	・定期考査 ・小テスト ・作図レポート	・定期考査 ・小テスト ・作図レポート	・定期考査 ・社会的事象への興味関心の度合い ・授業への取り組み（発問への反応） ・リフレクションシート

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学 期	4	1部 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 1章 地図や地理情報システムと現代世界	2	地球上の位置と地上の現象 経度の違いと時差 地理情報システムの利用	・地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取ることを通して、地図や地理情報システムの役割や有用性を理解している。・地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取る技能や、地図や地理情報システムを利用する技能を身につけている。・目的に応じた地図や地理情報システムの利活用の方法について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
	5		5	地理院地図を活用した作図作業	・地理情報システムの特徴や利用されている場面について理解している。・地理情報システムの特徴に着目しながら、地理情報システムが生活のなかでどのように役立てられているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。・地理情報システムの現在の利用方法や、これからの活用方法について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
	6	4節 自然災害への備え	6	減災への取り組みと被災地への支援 国家の領域と国境	・事前の備えに着目しながら、自然災害による被害はどのように最小化することができるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。・産業の発達や、世界の人々の生活に影響を与えてきたことについて理解している。
	7	2章 結びつきを深める現代世界	4	地図から見る日本の位置と領域 グローバル化と多様な結びつき 拡大する貿易	・経済圏に着目しながら、国家間の結びつきがどのように変化しているのかについて、地図を用いて多面的・多角的に考察し、表現している。・先進国と発展途上国の関係や、各国間の協定に着目しながら、世界の貿易にはどのような特徴があるのかについて、地図を用いて多面的・多角的に考察し、表現している。
2 学 期	9		6	世界を結ぶ交通・通信 観光と人の移動のグローバル化	・地域差に着目しながら、交通網・通信網の発達による世界の結びつきがどのように変化しているのかについて、地図を用いて多面的・多角的に考察し、表現している。・地図から読み取れる交通網・通信網の発達による世界の結びつきの変化について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
	10	2部 国際理解と国際協力 1章 生活文化の多様性と国際理解 4節 世界の宗教・民族・言語と人々の生活	7		・地形や気候、産業とその発展、歴史、人の移動、他地域との結びつきに着目しながら、世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかについて、多面的・多角的に考察している。・世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
	11		8	宗教・民族・言語の多様性 民族や言語の違いに起因する紛争	・宗教や言語といった文化が、民族というまとまりの形成や、人々の生活に影響を与えてきたことについて理解している。・世界の民族に着目しながら、各民族がどのような文化や生活様式をもっているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。宗教や言語といった文化が各民族を人々の生活を形づくってきたことや今日起こっている民族紛争について、主体的に追究し課題を見いだそうとしている。
	12		4		
3 学 期	1		2		
	2				
	3				

学年	3	コース等	理系	教科	地理歴史	科目	地理探究	単位数	4
使用教科書（発行所名）	新詳地理探究（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）								
補助教材等	COMPLETE 地理資料2026								

1. 教科・科目の目標（学習目標）

・地理に関わる諸事象に関し、世界の生活文化の多様性や、地球的課題への取組を理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、様々な情報を効果的にまとめる技能を身に付ける。・地理に関わる事象の意味、特色や関連を、位置や分布、人間や空間との相互関係などに着目して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を養う。・地理に関わる諸事象について、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養い、日本国民としての自覚、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「知識」に関しては、学習するそれぞれの内容についての基本的な概念や原理・法則などを理解している。「技能」に関しては、事象を地図化する技能や問題発見・解決の過程を自立的に遂行できるようにするために、その基礎となる技能を身につけたか。	・位置や分布の規則性を見だし、分布の規則性、傾向性を示す要因を考える。・場所の地域的特色を明らかにし、他の地域との比較により特殊性と一般性を探る。・自然からの制約とそれに対応した伝統的生活様式、自然環境への働きかけと自然環境の改変を明らかにし、地域の環境開発や環境保全の在り方を考える。・分布のパターンからどのような一般的な共通性の下、場所の特徴からどのような地域的特殊性を持ち、人々の生活と自然環境がどのように関わり、他地域とどのように結び付き、それらがどのように変容しながら、現在の地域が形成されたかを考察する。	・地理的な課題を主体的に追究、解決しようとする態度。 ・日本国民としての自覚。 ・我が国の国土に対する愛情。 ・世界の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・社会的事象への興味関心の度合い ・授業への取り組み（発問への反応） ・リフレクションシート

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学 期	4	6節 第3次産業 第3章 交通・通信 と観光、貿易	5	第3次産業の立地 業態別の売上高の変化 世界を結ぶ交通 日本の交通の特徴 情報通信の発展	第3次産業について、身近な地域の変化と関連 させて、特徴と変化を理解している。 交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、 観光などに関わる諸事象をもとに、それらの事象 の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信、観光 に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取り組 みなどについて理解する。
	5	第4章 人口、村落・都市	8	世界の人口 人口の移動	人口、都市・村落などに関わる諸事象につい て、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目し て、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則 性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向 などを多面的・多角的に考察し表現する。
	6		10	都市の分布と発達 都市問題とその解決	世界の都市が持続的に発展していくためには、 どのような課題があるのを理解し、それらを解決 するために、どのような取り組みが行われている のかを理解する。
	7	第5章 生活文化、民族・宗教	12	世界の民族・言語・宗教 さまざまな民族問題 多文化の共生に向けた取り組み	生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象につ いて、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目し て、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則 性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向 などを多面的・多角的に考察し表現する。
2 学 期	9	第2章 世界の諸地域	10	アジア アフリカ ヨーロッパ	地域的特色の成り立ちを、自然環境と人間活動 の相互関係から説明することができる。 地域の比較や関連付けを通して、共通点・相違 点を整理し、地理的視点から適切に判断できる。 学習内容を現代社会の課題と関連付け、よりよ い社会の在り方について考えようとしている。
	10	共通テストに向けて	14	南北アメリカ オセアニア	
	11		14		
	12		12		
3 学 期	1		4		
	2				
	3				

学年	3	コース等	文Ⅰ	教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	3
使用教科書（発行所名）		詳説日本史（山川出版社）							
補助教材等		新詳 日本史（浜島書店）							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

我が国の歴史の展開について総合的な理解を深め、各時代の展開に関わる概念等を活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し、地域や日本、世界の歴史の関わりを踏まえ、現代の日本の諸課題とその展望を探究する力を身に付ける。またその過程において我が国の歴史について、資料を活用し多面的・多角的に考察する力を身に付け、現代の日本の諸課題を見いだして、その解決に向けて生涯にわたって考察、構想することができる資質・能力を育成する。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を身に付けるとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めた。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	ワークシート 提出物 授業態度 考査	ワークシート 提出物 授業態度 考査	ワークシート 提出物 授業態度

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定時間	学習内容	評価規準
1学期	4	・幕藩体制の成立と展開	6	・幕藩体制確立期の経済・社会を兵農分離や都市支配などの観点から多面的多角的に考察する。 ・17世紀後半から18世紀における江戸幕府の安定期について、平和と秩序の確立の視点で考察する。	・幕藩体制確立期の経済・社会を多面的多角的に考察できる。 ・17世紀後半から18世紀における江戸幕府の安定期について、平和と秩序の確立の視点で考察できる。 ・政治的な事象の原因と結果について説明できる。
	5	・幕藩体制の成立と展開	7	・幕藩体制安定期の社会・経済の発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。 ・全国市場の確立や都市の発展による商品流通について理解し、各地の発展の理由について考察する。	・幕藩体制安定期の社会・経済の発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。 ・全国市場の確立や都市の発展の理由について考察できる。 ・政治的な事象の原因と結果について説明できる。
	6	・幕藩体制の動揺	8	・幕藩体制が動揺する中で行われた諸改革について理解する。 ・百姓一揆や打ちこわしについて、歴史的背景を踏まえ考察する。 ・江戸時代の文化について、身分的広がりや地域的広がりなどに着目して、多面的、多角的に理解する。	・幕藩体制が動揺する中で行われた諸改革について理解できる。 ・百姓一揆や打ちこわしについて、歴史的背景を踏まえ考察できる。 ・江戸時代の文化について理解できる。 ・政治的な事象の原因と結果について説明できる。
	7	・近世から近代へ ・近代国家の成立	9	・日本の開国を社会・経済面での変化とかかわらせて考察し、江戸幕府の威信低下と雄藩の台頭について政治情勢や列強の動向を関連させて理解する。 ・幕末の動乱における天皇中心の国家観の芽生えと幕府の滅亡に至るまでの経過を理解する。	・日本の開国から幕府の滅亡までの過程について理解できる。 ・天皇中心の中央主権国家の形成の背景について考察できる。 ・政治的な事象の原因と結果について説明できる。
2学期	9	・近代国家の成立	7	・明治政府の制度改革や富国強兵、殖産興業政策に着目し、国家的統一過程を理解する。 ・近代化に対するも農民反乱や士族反乱、言論闘争への転換について理解する。	・明治政府の制度改革や国家的統一過程について理解できる。 ・農民、士族反乱に至る時代背景や、自由民権運動への転換の背景について考察できる。 ・政治的な事象の原因と結果について説明できる。
	10	・近代国家の展開 ・近代の産業と生活	7	・日清戦争、日露戦争前後の国際関係や、国内における政治的、経済的課題について多面的、多角的に考察する。 ・近代産業の発展と国民生活の変容について考察し、それに伴う社会問題の発生と政府の対応について理解する。	・日清、日露戦争に至る国内外の情勢や戦後の情勢について理解できる。 ・近代産業の発展とその問題点について考察できる。 ・政治的な事象の原因と結果について説明できる。
	11	・恐慌と第二次世界大戦 ・占領下の日本	7	・ワシントン体制に至る国際的協調体制の確立と、戦後恐慌から始まる恐慌の時代における国家主義に台頭について理解する。 ・国際協調体制の崩壊と軍部の台頭、満州事変から太平洋戦争に至るまでの過程を政治、経済、外交等の視点から理解する。	・ワシントン体制に至るまでの国内外の情勢と、その後の国際協調体制の崩壊の要因について考察できる。 ・満州事変から敗戦に至るまでの国内外の情勢について理解できる。 ・政治的な事象の原因と結果について説明できる。
	12	・高度成長の時代 ・激動する世界と日本	6	・占領下政策からの脱却と高度経済成長、その後の安定成長期における社会的、経済的影響について考察する。 ・ドルショックや冷戦終結による日本の変容と経済大国への成長の原因について理解する。	・占領期から高度経済成長期に至る国内の情勢について理解できる。 ・安定成長期から経済大国に至るまでの国内外の情勢について理解できる。 ・政治的な事象の原因と結果について説明できる。
3学期	1	共通テスト演習	6	・テーマ別問題演習	・演習を通じて各時代、テーマの特徴について理解している。
	2				
	3				

学年	3	コース等	文Ⅱ	教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	3
使用教科書（発行所名）		詳説日本史（山川出版社）							
補助教材等		新詳 日本史（浜島書店）							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

我が国の歴史の展開について総合的な理解を深め、各時代の展開に関わる概念等を活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し、地域や日本、世界の歴史の関わりを踏まえ、現代の日本の諸課題とその展望を探究する力を身に付ける。またその過程において我が国の歴史について、資料を活用し多面的・多角的に考察する力を身に付け、現代の日本の諸課題を見いだして、その解決に向けて生涯にわたって考察、構想することができる資質・能力を育成する。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を身に付けるとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めた。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	ワークシート	ワークシート	ワークシート
	提出物	提出物	提出物
	授業態度	授業態度	授業態度
	考査	考査	

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学期	4	・幕藩体制の成立と展開	6	・幕藩体制確立期の経済・社会を兵農分離や都市支配などの観点から多面的多角的に考察する。 ・17世紀後半から18世紀における江戸幕府の安定期について、平和と秩序の確立の視点で考察する。	・幕藩体制確立期の経済・社会を多面的多角的に考察できる。 ・17世紀後半から18世紀における江戸幕府の安定期について、平和と秩序の確立の視点で考察できる。 ・政治的な事象の原因と結果について説明できる。
	5	・幕藩体制の成立と展開	7	・幕藩体制安定期の社会・経済の発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。 ・全国市場の確立や都市の発展による商品流通について理解し、各地の発展の理由について考察する。	・幕藩体制安定期の社会・経済の発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。 ・全国市場の確立や都市の発展の理由について考察できる。 ・政治的な事象の原因と結果について説明できる。
	6	・幕藩体制の動揺	8	・幕藩体制が動揺する中で行われた諸改革について理解する。 ・百姓一揆や打ちこわしについて、歴史的背景を踏まえ考察する。 ・江戸時代の文化について、身分的広がりや地域的広がりなどに着目して、多面的、多角的に理解する。	・幕藩体制が動揺する中で行われた諸改革について理解できる。 ・百姓一揆や打ちこわしについて、歴史的背景を踏まえ考察できる。 ・江戸時代の文化について理解できる。 ・政治的な事象の原因と結果について説明できる。
	7	・近世から近代へ ・近代国家の成立	9	・日本の開国を社会・経済面での変化とかわらせて考察し、江戸幕府の威信低下と雄藩の台頭について政治情勢や列強の動向を関連させて理解する。 ・幕末の動乱における天皇中心の国家観の芽生えと幕府の滅亡に至るまでの経過を理解する。	・日本の開国から幕府の滅亡までの過程について理解できる。 ・天皇中心の中央主権国家の形成の背景について考察できる。 ・政治的な事象の原因と結果について説明できる。
2 学期	9	・近代国家の成立	7	・明治政府の制度改革や富国強兵、殖産興業政策に着目し、国家的統一過程を理解する。 ・近代化に対するも農民反乱や士族反乱、言論闘争への転換について理解する。	・明治政府の制度改革や国家的統一過程について理解できる。 ・農民、士族反乱に至る時代背景や、自由民権運動への転換の背景について考察できる。 ・政治的な事象の原因と結果について説明できる。
	10	・近代国家の展開 ・近代の産業と生活	7	・日清戦争、日露戦争前後の国際関係や、国内における政治的、経済的課題について多面的、多角的に考察する。 ・近代産業の発展と国民生活の変容について考察し、それに伴う社会問題の発生と政府の対応について理解する。	・日清、日露戦争に至る国内外の情勢や戦後の情勢について理解できる。 ・近代産業の発展とその問題点について考察できる。 ・政治的な事象の原因と結果について説明できる。
	11	・恐慌と第二次世界大戦 ・占領下の日本	7	・ワシントン体制に至る国際的協調体制の確立と、戦後恐慌から始まる恐慌の時代における国家主義に台頭について理解する。 ・国際協調体制の崩壊と軍部の台頭、満州事変から太平洋戦争に至るまでの過程を政治、経済、外交等の視点から理解する。	・ワシントン体制に至るまでの国内外の情勢と、その後の国際協調体制の崩壊の要因について考察できる。 ・満州事変から敗戦に至るまでの国内外の情勢について理解できる。 ・政治的な事象の原因と結果について説明できる。
	12	・高度成長の時代 ・激動する世界と日本	6	・占領下政策からの脱却と高度経済成長、その後の安定成長期における社会的、経済的影響について考察する。 ・ドルショックや冷戦終結による日本の変容と経済大国への成長の原因について理解する。	・占領期から高度経済成長期に至る国内の情勢について理解できる。 ・安定成長期から経済大国に至るまでの国内外の情勢について理解できる。 ・政治的な事象の原因と結果について説明できる。
3 学期	1	共通テスト演習	6	・テーマ別問題演習	・演習を通じて各時代、テーマの特徴について理解している。
	2				
	3				

学年	3	コース等	文系	教科	地歴公民	科目	世界史探究	単位数	3
使用教科書（発行所名）		詳説世界史（山川出版社）							
補助教材等		アカデミア世界史（浜島書店） 新世界史研究ノート（啓隆社） スタンダード世界史（山川出版社）							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

近現代を通じて世界は、地域間の接触・交流の密度の高まりを受けて諸地域が多様なネットワークで結ばれ、それぞれの地域の内部構造も変容していくという一体化の過程を歩んできた。しかし一方で、世界は多元化・差異化・多様化の様相を拡大させ、国家間の武力紛争や内戦も後を絶たない。なぜ、こうした錯綜した状況が起こるのかを、近現代史の考察だけでなく、近現代以前の地域や国のそれぞれの成り立ちや文化的枠組みの形成、地域間の交流のありかたにさかのぼって考察する。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歴史の展開を考察する上で必須となる基本的な地名・人名等を、教科書、諸資料から適切かつ効果的に取り入れて理解し、それぞれの時代の基本的な視点や重要な主題テーマの考察に活用することができる。	歴史的概念を多面的・多角的に考察し柔軟に理解するとともに、判断にも偏りがない。錯綜した状況についても、原因の所在、結果の分析を基に理解し、自らの言葉で適切に表現することができる。	教科書が掲げる主題テーマ以外にも、自らの疑問を基に独自の主題を設定することができ、そこを基点に歴史への理解をさらに深めようとする意欲的な態度が認められる。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	・ 考査 ・ 小テスト ・ 課題プリント	・ 考査 ・ 小テスト ・ 課題プリント	・ 課題プリント ・ ノート提出 ・ 授業態度 ・ 考査

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学 期	4	第12章 産業革命と環大西洋革命 ・産業革命 ・アメリカ独立革命 ・フランス革命とナポレオンの支配 ・中南米諸国の独立	7	①海外貿易が近世ヨーロッパ経済の動向に与えた影響を理解する。 ②合衆国の独立の背景、独立がヨーロッパ諸国に与えた影響について理解する。 ③フランス革命とナポレオンの大陸支配について多面的・多角的に理解する。 ④中南米諸国の独立についてヨーロッパ史との関連において理解する。	・商業革命、価格革命、イギリスの海洋進出、植民地の支配構造との関わりの中で産業革命が理解できている。 ・両革命の比較、革命の帰結の差異が革命の推進勢力を軸に理解できている。 ・フランス革命とナポレオンの出現が中南米地域に与えた影響について理解できている。
	5	第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 ・ウィーン体制 ・ヨーロッパの再編 ・合衆国の発展 ・欧米の市民文化	6	①ウィーン体制の目指したものの、その崩壊過程について理解する。 ②独・伊の統一国家形成、ロシアの動向を軸に、ヨーロッパ世界の変化について理解する。 ③合衆国の領土拡大、発展と矛盾について理解する。 ④19世紀の欧米文化、科学技術の発展について理解する。	・ウィーン体制の崩壊過程におけるヨーロッパを、英、大陸諸国家、ロシアやオスマン帝国の動向の中で理解できている。 ・南北戦争、黒人差別の歴史を踏まえて、合衆国の発展とそれに伴う諸矛盾について理解している。 ・科学技術発展の功罪についても理解しようとしている。
	6	第14章 アジア諸地域の動揺 ・西アジアの変容 ・南アジア・東南アジアの植民地化 ・東アジアの激動	6	①オスマン帝国の動揺と改革、英露対立を軸とした西アジア世界の動向について理解する。 ②南アジアにおける特に英東インド会社の動向、ムガル帝国の崩壊と英による植民地化、東南アジアの植民地化について理解する。 ③清朝の危機の要因を多角的・多面的に理解する。	・いわゆる東方問題、オスマン帝国の改革の試み、イランの動向について理解している。 ・自由主義改革の中での東インド会社の変容、ムガル帝国崩壊に向かう経緯について理解している。 ・東南アジア・東アジアへの欧米の進出、抵抗と改革の動きについて理解している。
	7	第15章 帝国主義とアジアの民族運動 ・第2次産業革命と帝国主義 ・列強の世界分割 ・アジアの改革と民族運動	7	・列強の国内事情と第2次産業革命、列強支配地における経済・社会の動きについて理解する。 ・アジア・アフリカ、太平洋地域における列強の世界分割について理解する。 ・アジア諸地域の国内改革と民族運動の萌芽について理解する。	・教育の普及、福祉などの施策が民族意識を高め、対外進出への意識を高揚させた点についても理解している。 ・列強による世界分割の経緯、支配と被支配構造の成立、諸地域の民族運動の高まりについて多面的に理解しようとしている。
2 学 期	9	第16章 第一次世界大戦と世界の変容 ・第一次世界大戦とロシア革命 ・ヴェルサイユ体制と欧米諸国 ・アジアの民族運動	10	①バルカン情勢等大戦勃発の背景、ロシア革命の要因と経緯について理解する。 ②ヴェルサイユ体制の成立と欧州の国内情勢、伊のファシズムの台頭について理解する。 ・大戦がアジア諸地域に与えた影響、民族運動、日本の勢力拡大と中国・朝鮮の抵抗について理解する。	・帝国主義的対立の中から大戦勃発に至る経緯、ロシア革命が交戦国、植民地の民族運動に与えた影響について理解している。 ・ヴェルサイユ体制の理念とそこに含まれる戦勝国のエゴイズム、ファシズム台頭の要因について理解している。 ・日本の動向に注視し、民族運動の目指したものについて理解しようとしている。
	10	第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 ・世界恐慌とヴェルサイユ体制の崩壊 ・第二次世界大戦 ・新しい国際秩序の形成	6	①世界恐慌と各国の反応、日独伊の枢軸形成、ソ連の動向と人民戦線戦術、日中戦争に至る経緯について理解する。 ②ナチスドイツに対する各国の対応、開戦の経緯、独ソ戦、太平洋戦争に至る経緯について理解する。 ③国連の発足に至る連合国の動きと冷戦の萌芽について理解する。	・国際協調の機運を挫折させた要因とは何かを軸に、戦間期国際政治について多面的多角的に考察し、第二次世界大戦、アジア太平洋戦争に至る経緯について理解しようとしている。 ・国連発足に至る経緯の中に冷戦の萌芽がどのように現れているかを理解しようとしている。
	11	第18章 冷戦と第三世界の台頭 ・冷戦の展開 ・第三世界の台頭とキューバ危機 ・冷戦体制の動揺	6	①米ソ対立の背景、冷戦下の西欧、日本の動向、スターリン死後のソ連情勢、反ソ暴動の広がりについて理解する。 ②核戦争の危機、回避に向けた米ソの動き、第三世界の台頭と直面した政治・経済危機について理解する。 ③ベトナム戦争と朝鮮戦争、米ソをはじめとする諸国の歪みについて理解する。	・核戦争の脅威をはじめ冷戦下の国際対立が引き起こしたさまざまな問題について、多面的・多角的に考察使用としている。 ・ベトナム戦争、朝鮮戦争をはじめ各地の紛争・戦争の被害の実態についても理解しようとしている。 ・冷戦崩壊がどのように誘引されるのか、対立の諸矛盾について理解している。
	12	第19章 冷戦の終結と今日の世界 ・産業構造の変容 ・冷戦の崩壊 ・今日の世界 ・現代文明の様相	5	①中東戦争、資源ナショナリズムの動きを視野に戦後世界における国際経済の変容について理解する。 ②冷戦の崩壊に至る経緯と旧ソ連邦、東欧諸国の動向について理解する。 ③今日の世界、現代文明の様相について多面的・多角的に理解する。	・いまなお解決の糸口が見えないパレスチナ問題をはじめ、世界に存在する構造的暴力の存在について歴史的に考察することができる。 ・冷戦崩壊後の国際秩序、新たな国際対立とその解決に向けてなすべきことについて主体的な態度で考察しようとしている。
3 学 期	1	演習	5	演習	演習
	2				
	3				

学年	3	コース等	文系	教科	公民科	科目	倫理	単位数	3
使用教科書（発行所名）		『倫理』（数研出版）							
補助教材等		『最新図説 倫理』（浜島書店） 『倫理 整理ノート』（数研出版）							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

・古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。

・自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。

・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理に関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	・ 考査 ・ 授業用ノート	・ 考査 ・ 授業用ノート	・ 考査 ・ 授業用ノート ・ 授業態度

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学 期	4	第1編 現代に生きる 自己の課題と人間 としての在り方生き方 第1章 さまざまな人間の心の あり方		発達心理学 認知心理学 人格心理学 感情心理学	- 人間の心理的諸機能の発達や知的活動、人格の違い、感情の特徴に関する理論を理解できる（知識・技能） - 人間の心の働き、感情、性格や能力について考察し、他者との共生や自己実現や生きがいについて考え、発表できる（思考・判断・表現） - 今の自分の生き方を客観的に考え、性格や感情に関心を持ち、調べようとしている（主体的に学習に取り組む態度）
	5	第2章 さまざまな人生観 -源流思想-		古代ギリシアの思想 キリスト教 イスラム	- 古代のギリシア思想やユダヤ・キリスト教・イスラームの成立の背景や特徴が理解できる（知識・技能） - ギリシアの思想家が探究したものが何であったか、宗教が人間に対して持つ意味について考察し、自分の意見を表明できる（思考・判断・表現） - 哲学や宗教について興味を持ち、それらの教義についてどのようなものであるか調べようとしている（主体的に学習に取り組む態度）
	6	第2章 さまざまな人生観 -源流思想-		古代インドの思想と仏教 中国の思想	- インドでの宗教成立の背景、ブッダの世界観、中国の思想について理解できている（知識・技能） - インドの思想や中国の思想が現代社会に与える意味について考えることができる（思考・判断・表現） - 日常生活の仏事や日本社会の中にある中国思想について関心を持ち、調べようとしている（主体的に学習に取り組む態度）
	7	第3章 さまざまな倫理観・世界 観 -西洋近代思想-		理性への信頼と人間の尊厳 自然・科学技術と人間	- ルネサンス期の人々、宗教改革の担い手、モリスの業績や近代科学の先駆者の功績について理解できている（知識・技能） - ルネサンスと宗教改革がヨーロッパの近代化に持った意義について考察できている（思考・判断・表現） - 近代がそれまでの時代からの変化と科学的思考に興味を持ち、それらの特徴について明らかにしようとしている（主体的に学習に取り組む態度）
2 学 期	9	第3章 さまざまな倫理観・世界 観 -西洋近代思想-		自然・科学技術と人間	- デカルトやベーコンやその後の経験論・合理論の立場に立つ思想家の主張について理解できている（知識・技能） - デカルトやベーコンに始まる思想家達の自然観や人間観、世界観を考察できる（思考・判断・表現） - 現代の科学・技術と人間生活との関わりに興味を持ち、科学的思考の特徴について明らかにしようとしている（主体的に学習に取り組む態度）
	10	第4章 国際社会に生きる日本人 としての自覚		現代社会と生き方 日本の風土と古代日本人の考え方 仏教の受容と展開 儒学の受容と国学の発達 西洋思想の受容と近現代の日本の思想	- 仏教の教義やその影響、日本の儒学や国学の主張や時代背景が理解できる（知識・技能） - 仏教や儒教の思想が現代の日本人の精神に与えた影響について考えることができる（思考・判断・表現） - 現代の生活に見られるような仏教や儒教的な儀礼や考え方に注目し、どのような歴史的な状況の中で成立し、社会に影響を与えたか関心を持ち調べようとする（主体的に学習に取り組む態度） - 西洋の思想がどう受容されたか、その後日本の思想はどう広がりを果たしたか、原典や口語訳を通し、さまざまな情報を読み取る技能を身に付けている（知識・技能） - 幕末や終戦などの社会の状況や現代の国際社会の中で、今後の日本がどのような役割を果たしているのか意見を交わすことができる（思考・判断・表現） - どのように日本の近代化がなされ、どのような問題があったのかを考えようとしている（主体的に学習に取り組む態度）
	11	第2編 現代の諸課題と倫理		生命をめぐる諸課題 自然をめぐる諸課題 福祉をめぐる諸課題 文化と宗教をめぐる諸課題 平和をめぐる諸課題	- 現代社会が抱える問題の概要やそれらに対する諸制度を理解できる（知識・技能） - 現代社会のさまざまな問題を既習内容を通し、課題や今後のあるべき姿を考察できる（思考・判断・表現） - これから起こりうる社会問題を予想し、これからの社会にあるべき個人の在り方を考え、すべきことを考え、行動できる（主体的に学習に取り組む態度）
	12	演習		演習	演習
3 学 期	1	演習		演習	演習
	2				
	3				

学年	3	コース等	文系	教科	数学	科目	数学	単位数	5
使用教科書（発行所名）	新編 数学Ⅱ（数研出版）、新編 数学B（数研出版）、新編 数学C（数研出版）								
補助教材等	サクシード数学Ⅱ+B、C（数研出版）、チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B、C（数研出版）、入試必修問題集 練磨 数学Ⅰ・Ⅱ・A・B+数学C（啓林館）								

1. 教科・科目の目標（学習目標）

（数Ⅱ）いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。 （数B）数列、統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。 （数C）ベクトル、平面上の曲線と複素数平面について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
--

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査 - 小テスト	- 定期考査 - 小テスト	- 小テスト - 出席状況 - 提出物等

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学期	4	問題演習	13		
	5	問題演習	15		
	6	問題演習	18		
	7	問題演習	17		
2 学期	9	問題演習	18		
	10	問題演習	22		
	11	問題演習	22		
	12	問題演習	15		
3 学期	1	問題演習 2次特編	16		
	2	2次特編	16		
	3				

学年	3	コース等	理系（内進）	教科	数学	科目	数学	単位数	6
使用教科書（発行所名）	新編 数学Ⅲ（数研出版）、新編 数学C（数研出版）								
補助教材等	サクシード数学Ⅲ+C（数研出版）、チャート式 解法と演習 数学Ⅲ+C（数研出版）、入試必修問題集 練磨 数学Ⅲ+数学C（啓林館）								

1. 教科・科目の目標（学習目標）

微分法及び積分法について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査 - 小テスト	- 定期考査 - 小テスト	- 小テスト - 出席状況 - 提出物等

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学期	4	問題演習	16		
	5	問題演習	19		
	6	問題演習	22		
	7	問題演習	21		
2 学期	9	問題演習	22		
	10	問題演習	26		
	11	問題演習	25		
	12	問題演習	18		
3 学期	1	問題演習 2次特編	20		
	2	2次特編	20		
	3				

学年	3	コース等	理系（北進）	教科	数学	科目	数学	単位数	6
使用教科書（発行所名）	新編 数学Ⅲ（数研出版）、新編 数学C（数研出版）								
補助教材等	サクシード数学Ⅲ+C（数研出版）、チャート式 解法と演習 数学Ⅲ+C（数研出版）、入試必修問題集 練磨 数学Ⅲ+数学C（啓林館）								

1. 教科・科目の目標（学習目標）

微分法及び積分法について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査 - 小テスト	- 定期考査 - 小テスト	- 小テスト - 出席状況 - 提出物等

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学期	4	数学Ⅲ（微分法）	16	微分係数や導関数の定義を理解し、導関数についての様々な性質や公式を導き、それらを導関数の計算に活用できるようにする。	- 微分係数の意味を理解しており、接線の方程式が求められる。 - 最大・最小の応用問題で、変数のとり方、定義域に注意している。
	5	数学Ⅲ（微分法）	19	導関数を、接線、関数の増減、グラフなどに活用できるようにするとともに、積極的に導関数を活用しようとする姿勢を養う	- 接線に直交する条件と、直線の方程式の公式から、法線の方程式の公式を考えることができる。 - 方程式の重解と微分の関係についての証明に関心を持ち、考察しようとする。
	6	数学Ⅲ（積分法）	22	様々な関数の不定積分やその計算法則を導関数をもとにして考え、それをもとに不定積分を求められるようにする。	- 被積分関数を適切に変形することで、不定積分を求めることができる。 - 簡単に不定積分の計算ができないとき、変数の置換をどのようにすればよいかを考え、置換積分を利用しようとする。
	7	数学Ⅲ（積分法）	21	定積分を活用して、面積、体積、曲線の長さなどを求められるようにし、またそれらを通じて定積分の理解をさらに深める。	- 直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求められる。 - 回転体の体積を、定積分を用いて求めようとする。
2 学期	9	問題演習	22		
	10	問題演習	26		
	11	問題演習	25		
	12	問題演習	18		
3 学期	1	問題演習 2次特編	20		
	2	2次特編	20		
	3				

学年	3	コース等	理系	教科	理科	科目	物理	単位数	5
使用教科書（発行所名）		物理基礎(数研出版)							
補助教材等		研究ノート物理 リードα物理							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

①日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
 ②観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
 ③物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
物理学の知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているか。また、結果の記録や整理、活用の仕方を身につけているか。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか。また、学んだ知識をもとに生じた疑問を自ら探究していけるか。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査 - 課題の取り組み内容	- 定期考査 - 課題(思考問題)の内容	- ワークシート - 課題への取り組み状況

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学 期	4	第4編 電気と磁気 ・ 静電気力 ・ 電場 ・ 電位	9	・ 電荷や帯電、電気量保存の法則、静電気力について ・ 静電誘導、誘電分極について ・ 電場の基本的な性質、電場と電気力線の関係、一様な電場について ・ 電位の基本的な性質、等電位面と電気力線の関係について	・ 静電気の帯電のしくみ、電荷のもつ電気量を理解している。 ・ 電気量保存の法則やクーロンの法則について理解している。 ・ 箔検電器を用いた電荷の移動について正しく理解している。 ・ 電場がベクトル量であることを理解し、電荷が電場から受ける力や電場の強さ向きを求めることができる。 ・ 電気力線がどのようなものかを理解している。 ・ 電位について理解し、さまざまな関係式を正しく適用できる。 ・ 等電位線がどのようなものか理解している。
	5	・ コンデンサー	15	・ コンデンサーの原理について ・ 合成容量、静電エネルギーについて ・ 電子の運動をもとにした、オームの法則の導出について ・ 電流計、電圧計、電池の内部抵抗について ・ キルヒホッフの第1, 2法則について ・ ホイートストンブリッジや電位差計のしくみについて ・ 非直線抵抗やコンデンサーを含む回路について ・ 半導体の性質、ダイオードや太陽電池のしくみについて	・ コンデンサーの式を使うことができる。 ・ コンデンサーに誘電体をはさんだとき、電気容量がどのように変わるか理解している。 ・ コンデンサーの直列接続、並列接続の式を理解している。 ・ コンデンサーの充電、放電のしかたについて正しく理解している。 ・ オームの法則、ジュール熱や電力・電力量を理解している。 ・ 抵抗を直列、並列に接続したとき、電流、電圧がどのような関係にあるか理解している。 ・ キルヒホッフの法則をつかうことができる。 ・ 電池の起電力や内部抵抗の関係やホイートストンブリッジ、電位差計など未知の抵抗値や起電力を調べる方法を理解している。
	6	・ 磁場 ・ ローレンツ力 ・ インダクタンス	14	・ 磁気力に関するクーロンの法則について ・ 電流がつくる磁場の強さと磁力線の概形について ・ 磁場中で電流が受ける力について ・ 磁束密度と磁場との関係、磁化の性質について ・ 磁場中に入射した粒子の運動について ・ ホール効果のしくみについて ・ ファラデーの電磁誘導の法則について ・ 自己誘導、相互誘導について	・ 磁気力に関するクーロンの法則や磁場の定義を理解している。 ・ 直線電流、円形電流、ソレノイドの電流がつくる磁場について理解している。 ・ フレミングの左手の法則について理解している。 ・ 「透磁率」、「比透磁率」、「磁束密度」、「磁束」などの物理量の意味を理解している。 ・ 平行電流が及ぼしあう力について理解している。 ・ ローレンツ力について理解して、「ホール効果」や「サイクロトロン」について原理を理解している。 ・ さまざまな電磁誘導の事例について理解している。 ・ 自己誘導や相互誘導などの関係式を適用できる。
	7	・ 交流・共振回路	9	・ 交流の発生の仕組みと交流回路について ・ 変圧器の仕組みについて ・ 電磁波の性質や種類について	・ 交流電流、交流電圧の式を理解している。また、これらには位相差が生じていることを理解している。 ・ コイル・コンデンサーのリアクタンスについて理解している。 ・ 交流回路のインピーダンスについても理解している。 ・ 共振回路や電気共振について理解している。 ・ 電磁波について理解している。
2 学 期	9	第5編 原子 ・ 粒子性と波動性 ・ 原子と原子核	14	・ 電子の発見からその性質が解明されるまでの歴史的な背景について ・ 光電効果について ・ X線の発生とその原理について ・ コンプトン効果について ・ 電子の粒子性と波動性の二重性について ・ 原子模型と各模型の特徴について ・ ラザフォードの原子模型とボーアの水素原子模型の特徴について ・ 水素原子の軌道半径やエネルギー準位について ・ 放射性崩壊における特徴と原子核の安定性について ・ 核反応について ・ 素粒子について	・ 陰極線について理解している。 ・ 電気素量の導出について理解している。 ・ 光子のエネルギーの式を適用できる。 ・ 光電効果について理解している。 ・ X線の性質、特徴について理解している。 ・ ボーア理論について理解している。 ・ 放射性崩壊によって、原子核がどのように変化するか理解している。 ・ 核分裂反応・核融合反応について理解している。 ・ 素粒子の分類について理解している。

3 学 期	10	演習	19	大学入試問題を用いて、電磁気、原子分野を中心に理解を深める。	- 電磁気分野について、理解を深めている。 - 原子分野について、理解を深めている。
	11	演習	19	大学入試問題を用いて、力学、熱力学、波動分野を中心に理解を深める。	- 力学分野について、理解を深めている。 - 熱力学分野について、理解を深めている。 - 波動分野について、理解を深めている。
	12	演習	17	大学入学共通テストの問題を通して、マーク式の問題に慣れる。	マーク模試の解くポイントについてまとめ、マスターすることができる。
	1	演習	12	- 苦手な分野の復習をし、理解を深める。 - 基本的な大学入試レベルの問題を通して、全分野の復習を行う。	- マーク模試の解くポイントについてまとめ、マスターすることができる。 - 基本的な大学入試レベルの問題を通して、全分野の復習ができる。
	2	演習	14	- 基本的な大学入試レベルの問題を通して、全分野の復習を行う。 - 受験校の問題を通して各分野の理解を深める。	- 基本的な大学入試レベルの問題を通して、全分野の復習ができる。 - 問題演習を通して、受験校の系統やその対策ができる。

学年	3	コース等	文系	教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2
使用教科書（発行所名）		化学基礎（東京書籍）							
補助教材等		化学基礎研究ノート、共通テスト用問題集（7月購入予定）							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探求するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。

(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

(3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査 - 小テスト・確認テスト	- 定期考査 - 確認テスト	- 授業中の態度 - 課題や小テストの取組 - 実験プリントへの取組

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学期	4	物質の成分と構成元素 物質の三態	5	- 物質の成分 - 物質の構成元素 - 物質の三態	- 混合物、純物質、単体、化合物の区別ができ、特徴が分かる。 - 混合物の分離の方法を理解している。 - 熱運動と三態の変化の関係を理解している。
	5	原子の構造と元素の周期表 化学結合	5	- 原子の構造 - 電子配置 - 元素の周期表 - イオンとイオン結合 - 金属と金属結合 - 化学結合と物質の分類	- 原子の構造を理解している。 - 電子配置と物質の性質の関係を理解している。 - 各種結合の仕組みを理解している。 - 物質の結晶の区別ができ、特徴が分かる。
	6	物質量と濃度 化学反応式の計算	5	- 原子量・分子量・式量 - 物質量 - 溶液の濃度 - 化学反応の表し方 - 化学反応式の表す量的関係	- 物質量(mol)について理解し計算できる。 - 溶液の濃度の計算ができる。 - 化学反応式が書ける。 - 化学反応式を使った計算ができる。
	7	酸・塩基	6	- 酸と塩基 - 水素イオン濃度とpH - 中和反応と塩 - 中和滴定	- 酸と塩基の特徴と定義が分かる。 - 水素イオン濃度とpHについて理解し計算できる。 - 中和反応を理解し、量的関係の計算ができる。 - 中和滴定の操作と滴定曲線について理解している。
2 学期	9	酸化還元反応	6	- 酸化と還元 - 酸化剤と還元剤 - 金属の酸化還元反応 - 酸化還元反応の応用	- 酸化還元の定義が分かる。 - 酸化剤・還元剤の定義が分かる。 - 酸化還元に関する量的計算ができる。 - 金属のイオン化傾向と酸化還元を理解している。 - 電池について理解している。
	10	演習	6	大学入試に向けた問題演習を行い理解を深める	
	11	演習	6	大学入試に向けた問題演習を行い理解を深める	
	12	演習	6	大学入試に向けた問題演習を行い理解を深める	
3 学期	1				
	2				
	3				

学年	3	コース等	理系	教科	理科	科目	化学	単位数	4
使用教科書（発行所名）		化学（東京書籍）							
補助教材等		ニューグローバル化学基礎＋化学、化学基礎・化学重要問題集							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2) 観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
化学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。	化学的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究している。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査 - 小テスト・確認テスト	- 定期考査 - 確認テスト	- 授業中の態度 - 課題や小テストの取組 - 実験プリントへの取組

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学期	4	4編 無機物質 3章 典型金属元素の単体と化合物 4章 遷移元素の単体と化合物	9	・アルカリ金属とその化合物 ・アルカリ土類金属とその化合物 ・1、2族以外の典型金属元素とその化合物 ・遷移元素の特徴 ・遷移元素とその化合物	・それぞれの物質の特徴などを理解している。 ・物質を系統的にとらえることができる。 ・実験観察の方法などを理解している。
	5	5章 金属イオンの分離と確認 5編有機化合物 1章 有機化合物の特徴と構造 2章 炭水化物	10	・金属イオンが検出できる反応 ・金属イオンの系統分離と確認 ・有機化合物の特徴 ・有機化合物の構造式の決定 ・飽和炭水素 ・不飽和炭水素	・物質の性質を利用した確認法を理解できる。 ・金属イオンの分離法を理解できる。 ・有機化合物の定義を理解している。 ・有機化合物の構造の特徴を理解している。 ・有機化合物の定性的・定量的分析ができる。 ・炭水素の構造から性質の違いを考察できる。
	6	3章 アルコールと関連化合物	10	・アルコールとエーテル ・アルデヒドとケトン ・カルボン酸 ・エステル・油脂・セッケン	・官能基の違いによる性質を理解している。 ・反応による官能基の変化を理解している。 ・異性体について理解し、その性質の違いを考察できる。
	7	4章 芳香族化合物 6編 高分子化合物 1章 高分子化合物とは何か 2章 天然高分子化合物	13	・芳香族化合物 ・フェノール類と芳香族カルボン酸 ・芳香族アミンとアゾ化合物 ・芳香族化合物の分離 ・高分子化合物の分類と特徴 ・単糖類と二糖類 ・多糖類	・芳香族化合物の定義を理解している。 ・それぞれの芳香族化合物の性質を理解している。 ・芳香族化合物の分離法について理解している。 ・高分子化合物の定義と特徴を理解している。 ・糖類の特徴を理解している。
2 学期	9	3章 合成高分子化合物	13	・アミノ酸 ・タンパク質 ・合成繊維 ・合成樹脂 ・ゴム	・アミノ酸の特徴を理解している。 ・タンパク質の構造と性質を理解し、その確認法を理解している。 ・合成繊維・合成樹脂・ゴムの性質と構造を理解している。
	10	演習	13	大学入試に向けた問題演習を行い理解を深める	
	11	演習	13	大学入試に向けた問題演習を行い理解を深める	
	12	演習	10	大学入試に向けた問題演習を行い理解を深める	
3 学期	1				
	2				
	3				

学年	3	コース等	文系	教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2
使用教科書（発行所名）		生物基礎（実教出版）							
補助教材等		スクエア最新図説生物（第一学習社） 生物基礎研究ノート（博洋社） ニューグローバル生物基礎（東京書籍）							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

- ① 生物の多様性を踏まえつつ、生物に共通する概念や原理・法則を理解する。
- ② 遺伝子・健康・環境など、日常生活や社会とのかかわりを考えるために必要な科学的素養を高める。
- ③ 観察、実験を通して生物や生命現象に対する畏敬の念を育む。
- ④ 多様性と共通性という2つの視点から、生物や生命現象を探究する方法や姿勢を身につける。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 自然の事物・現象についての基本的な概念や原理、法則などを理解している。 - 自然の事物・現象についての観察、実験の基本操作を習得するとともに、結果の記録や整理、資料の活用の仕方などを身に付けている。	生徒が自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を解釈し表現するなど、科学的に探究する過程において思考・判断・表現しているかを、発言や記述の内容、ペーパーテストなどから状況を把握する。	- 課題等の提出をきちんと提出している。 - 既習内容からさらに課題を見出し、自発的調べ学習や追加実験を行い、レポート等にまとめ提出できた。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査 - 小テスト・確認テスト - 宿題・課題プリント	- 定期考査 - 小テスト・確認テスト - 宿題・課題プリント	- 授業中の学習への取り組みの様子（観察） - 課題への取り組み状況・提出状況 - 振り返りシート・学習記録 - ノートへの記述内容の充実度

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価基準
1 学 期	4	1章 生物の特徴	5	・光学顕微鏡やマイクロメーターの正しい扱方を説明できる。 ・レンズの倍率変換と接眼マイクロメーター1目盛りの長さの関係を理解する。 ・生命活動に必要なエネルギー代謝について理解する。 ・代謝に必要な酵素の特性を理解する。	・光学顕微鏡やマイクロメーターのデータを用いて、生物の細胞の観察と大きさの計測等ができるようになる。 ・生命活動に必要なエネルギー代謝について理解し、表現することができる。また、代謝に必要な酵素の特性について実験結果から、考察することができる。
	5	2章 遺伝子とその働き	5	・DNAの構造が遺伝情報を担い得る特徴をもつことを理解する。 ・シャルガフの法則から塩基組成を推定し、体細胞分裂の細胞周期の時間を用いて、各時期の細胞数から占める時間を推定する。 ・転写、翻訳の過程を説明できる。	・DNAの構造が遺伝情報を担い得る特徴をもつことを理解し、表現することができる。 ・シャルガフの法則から塩基組成を推定することができる。 ・体細胞分裂の観察結果から、細胞周期や各分裂期に要する時間を推定することができる。 ・ゲノムを理解し説明できる。
	6	3章 ヒトのからだの調節	5	・体内環境が一定の範囲に調節されていることを理解する。 ・腎臓の構造と働き、濃縮率を理解する。 ・肝臓による物質の合成、分解、貯蔵のはたらきについて理解する。 ・自律神経系の構造と働きを理解し、日常生活での体の変化と結び付けてはたらきを考える。 ・血糖値の変化のグラフから、自律神経系と内分泌腺に生じる働きについて考察する。 ・糖尿病患者の血糖値の推移グラフからⅠ型糖尿病とⅡ型糖尿病の違いを受容体の感受性と関連して考える。	・体内環境が一定の範囲に調節されていることを理解するとともに、体液がその中心となる役割を果たしていることを説明できる。 ・腎臓の構造と働きを理解し、濃縮率、再吸収量が数値データから表現できる。 ・肝臓による物質の合成、分解、貯蔵のはたらきについて理解し、説明できる。 ・体内環境が一定の範囲に調節されていることを理解するとともに、体液がその中心となる役割を果たしていることを説明できる。 ・腎臓の構造と働きを理解し、濃縮率、再吸収量が数値データから表現できる。 ・肝臓による物質の合成、分解、貯蔵のはたらきについて理解し、説明できる。
	7	4章 生物の多様性と生態系	6	・火山噴火後などの裸地から、どのように植生の遷移が進むのかを理解する。 ・気温と降水量の違いによって、どのようなバイオームが形成される理解する。 ・生態系には多様な生物種が存在することを理解するとともに、生物の関係性でバランスが保たれていることを理解する。生態系は大規模な攪乱でバランスが崩れることを理解する。 ・人間活動が生態系に与えている現状を知ること、自然環境保全に寄与する行動を考察する。	- 火山噴火後などの裸地から、どのように植生の遷移が進むのかを説明することができる。日本の垂直分布や水平分布、また各植生において代表的な植物種を答えることができる。 - 気温と降水量の違いによって、どのようなバイオームが形成されるか説明することができる。 - 生態系には多様な生物種が存在することを理解し、生物の関係性でバランスが保たれていることを説明できる。生態系は大規模な攪乱でバランスが崩れることを理解し、小規模攪乱と比較して説明できる。人間活動が生態系に与えている現状を知り、自然環境保全に寄与する行動を説明できる。
2 学 期	9	演習	6	大学入試共通テスト問題を中心とした演習を行い、各分野の理解を深めさせる。	問題演習への取り組み、内容の理解ができているか。
	10	演習	7	大学入試共通テスト問題を中心とした演習を行い、各分野の理解を深めさせる。	問題演習への取り組み、内容の理解ができているか。
	11	演習	6	大学入試共通テスト問題を中心とした演習を行い、各分野の理解を深めさせる。	問題演習への取り組み、内容の理解ができているか。
	12	演習	4	大学入試共通テスト問題を中心とした演習を行い、各分野の理解を深めさせる。	問題演習への取り組み、内容の理解ができているか。
3 学 期	1	演習	3	大学入試共通テスト問題を中心とした演習を行い、各分野の理解を深めさせる。	問題演習への取り組み、内容の理解ができているか。
	2				
	3				

学年	3	コース等	理系	教科	理科	科目	生物	単位数	5
使用教科書（発行所名）		高等学校生物（啓林館）							
補助教材等		新生物図説スクエア最新図説生物（第一学習社） 生物研究ノート（博洋社） ニューグローバル生物基礎・生物（東京書籍）							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

- ① 「生物基礎」との関連を図りながら、生物や生物現象をさらに広範囲に取り扱い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けさせる。
 ② 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ、科学的な自然観を育てる。
 ③ 観察・実験を通して自然を科学的に探究する能力を育てる。さらに、実験に対する目的、仮説、準備、方法、結果、考察、発展という手順に従ったレポートを作成する能力を育てる。
 ④ 命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て、生命を尊重する精神を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生物学の知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているか。また、結果の記録や整理、活用の仕方を身につけているか。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか。また、学んだ知識をもとに生じた疑問を自ら探求していけるか。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査 - 小テスト・確認テスト - 宿題・課題プリント	- 定期考査 - 小テスト・確認テスト - 宿題・課題プリント	- 授業中の学習への取り組みの様子（観察） - 課題への取り組み状況・提出状況 - 振り返りシート・学習記録 - ノートへの記述内容の充実度

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学期	4	第2部 生命現象と物質 6章 代謝	11	- 呼吸におけるエネルギー変換の仕組みについて理解する。 - 呼吸の反応式を元に、呼吸商や反応生成物量について、定量的に具体的に扱うことで、数的処理を学ぶ。	- 呼吸におけるエネルギー変換の仕組みについて説明できるようになる。 - 呼吸の反応式をもとに、呼吸商や反応生成物量について、定量的に扱うことができる。
	5	第3部 遺伝情報の発現と発生 7章 遺伝現象と物質	15	遺伝子の本体であるDNAの構造、遺伝情報の複製・転写・翻訳のしくみ、そして遺伝子の発現の調節のしくみを学習する。	- 遺伝情報の複製のしくみを説明できる。 - DNAの複製のしくみ、遺伝子の発現のしくみ（転写、スプライシング、翻訳）およびゲノムの多様性を考えることができる。 - 原核生物と真核生物との遺伝子の発現の違いについて理解し、説明できる。 - 環境に応じて発現する遺伝子の種類と量は異なり、ラクトースオペロン、トリプトファン代謝を理解し、転写調節およびそのしくみの概要を説明できる。
	6	8章 発生と遺伝子の発現	14	- 受精卵は分裂を続けて細胞数を増やすとともに、次第に様々な組織や器官が生じて成体が作られていくことを理解する。 - どのようなしくみで組織や器官が形成されていくのかを学習する。	- 配偶子（精原細胞・卵原細胞）形成と受精の過程を理解し、その結果配偶子に遺伝的多様性が増すことを説明できる。 - 発生初期の細胞分裂である卵割から器官分化の始まりまでの過程について理解できる。 - 細胞の分化と形態形成のしくみを理解し、説明できる。 - 特定の器官への分化を促す働きである誘導、そのような働きをする部分である形成体の役割を理解できる。
	7	9章 バイオテクノロジー 第4部 生物の環境応答 10章 刺激の受容と反応	13	- 近年、遺伝子の発現などの生命現象を利用したバイオテクノロジーが、研究だけでなく実社会にも応用されている。ここでは、バイオテクノロジーの基本的な原理を理解し、その応用例と影響について学習する。 - 外界の刺激を受容し、神経系を介して、反応するしくみを学び、刺激に対する反応としての動物個体の行動について理解する。 - 動物は、光や音などの刺激を手がかりにして、獲物や外敵の存在などの情報を得ている。情報を処理して正確ですばい反応を引き起こすしくみについて学習する。	- 遺伝子を扱った技術について、その原理と有用性を理解しその影響について考察できる。 - ある特定のDNAの配列を切断する制限酵素、特定の遺伝子を組み込んで生物内で増殖させるベクター、特定のDNA領域を多量に増幅する方法（PCR法）など遺伝子を扱った技術を知るとともに、そうした技術を支える発見や原理について考察できる。 - 外界の刺激を受容する受容器について眼や耳を中心に、そのはたらきを考えることができる。 - 神経系において情報を伝えたり処理する神経細胞が、刺激を伝達するしくみを考えることができる。
2 学期	9	10章 刺激の受容と反応 11章 動物の行動 12章 植物の環境応答	8	- 行動とは、生物を含む環境に対して、生物が反応したりはたらきかけたりする活動である。動物の行動が起こるしくみについて学習する。 - 移動能力をもたない植物には、周囲の環境の変化に応じた発生や成長などの調節がみられる。植物の一生をたどりながら、植物の環境応答とそのしくみについて学習する。	- 動物の生得的行動について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 - 植物ホルモンに関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。 - 植物ホルモンによる発芽、栄養成長、気孔の開閉、花芽形成の調節について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 - 被子植物の細胞分化について、その特徴やしくみを理解し表現できる。
	10	第5部 生態と環境 13章 個体群と生物群集 14章 生態系	15	- 個体群の構造と成長、変動を学ぶとともに、個体群内の相互関係について理解する。また、異種個体群間の相互関係について学習する。 - 生態系における物質生産とエネルギー効率について理解させる。窒素固定と窒素同化について理解させる。 - 生態系と生物多様性 - 生物多様性やそれに影響を与える要因を理解し、生物多様性の重要性を認識させる。	- 個体群と環境適応に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。 - 個体群の構造と成長について、基本的な概念や原理・法則を理解し、表現できる。 - 個体群の特徴に個体間の関係が反映されることや、つがい関係などの重要性について考察できる。 - 被食者―捕食者相互関係や共生と寄生などの異種個体群間の相互関係を理解し、表現できる。 - 生態系の構造とそこでの物質生産が理解できる。 - 有機窒素化合物を合成する働きである窒素固定・窒素同化を理解し、図示できる。 - 生態系における植物による物質生産、動物の同化量・生産量とエネルギー効率や生態ピラミッドを理解し、説明できる。
	11	演習	18	問題演習への取り組み、内容の理解ができているか。	問題演習への取り組み、内容の理解ができているか。
	12	演習	16	問題演習への取り組み、内容の理解ができているか。	問題演習への取り組み、内容の理解ができているか。
3 学期	1	演習	10	大学入試2次試験問題を中心とした演習を行い、各分野の理解を深めさせる。	問題演習への取り組み、内容の理解ができているか。
	2	演習	10	大学入試2次試験問題を中心とした演習を行い、各分野の理解を深めさせる。	問題演習への取り組み、内容の理解ができているか。
	3				

学年	3	コース等	全クラス	教科	保健体育	科目	体育	単位数	2
使用教科書（発行所名）		現代高等保健体育（大修館書店）							
補助教材等		アクティブスポーツ							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

・運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。

・生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。

・運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の実践に関する事項や生涯にわたって運動を実践することについて理解しているとともに、運動の基本的な技能を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について理解しているとともに、基本的な技能を身に付けているかを評価する。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともにそれらを他者に伝えているかを評価する。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動に主体的に取り組んでいる。集団活動において作戦会議や課題解決のための話し合いに参加している。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に主体的に取り組んでいるかを評価する。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	・ワークシート ・実技テスト ・学習カード ・授業中の学習への取り組みの様子（観察）	・ワークシート ・学習カード ・授業中の学習への取り組みの様子（観察）	・ワークシート ・学習カード ・授業中の学習への取り組みの様子（観察）

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学 期	4	体づくり運動	8	・のびのびとした動作で用具などを用いた運動を行うことを通して、気持ちいったり関わり合ったりする。 ・リズムに乗って心が弾むような運動を行うことを通して、気持ちいったり関わり合ったりする。 ・調和のとれた体力の向上を図ったり、選択した運動やスポーツの場面で必要とされる体の動きを高めたりするために、効率のよい組合せやバランスのよい組合せで運動の計画を立てて取り組む。	【知識・技能】 ・体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・体づくり運動に主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする
	5	球技Ⅰ	14	【ア ゴール型】 ・バスケットボール 【イ ネット型】 ・バレーボール ・バドミントン 【ウ ベースボール型】 ・ソフトボール	【知識・技能】 ○知識 ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ○技能 ・ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防をすることができる。 ・ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる。 ・ベースボール型では、状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。 【思考・判断・表現】 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする
	6				
	7	体育理論	2	豊かなスポーツライフの設計の仕方	○体育理論 【知識】 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解している。 【思考・判断・表現】 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に主体的に取り組もうとしている。
2 学 期	9	球技Ⅱ	17	【ア ゴール型】 ・バスケットボール ・サッカー 【イ ネット型】 ・バレーボール ・卓球	球技における評価基準は上記内容と同じ
	10				
		体育理論	2	豊かなスポーツライフの設計の仕方	体育理論における評価基準は上記内容と同じ
	11	球技Ⅲ	8	【ア ゴール型】 ・サッカー ・バスケットボール 【イ ネット型】 ・バドミントン ・卓球	球技における評価基準は上記内容と同じ
	12				
3 学 期	1	球技Ⅳ	10	【ア ゴール型】 ・サッカー ・バスケットボール 【イ ネット型】 ・バドミントン ・卓球	球技における評価基準は上記内容と同じ
	2				
	3	体育理論	2	豊かなスポーツライフの設計の仕方	体育理論における評価基準は上記内容と同じ

学年	3	コース等	普通	教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅢ	単位数	4
使用教科書（発行所名）		Crown English Communication Ⅲ（三省堂）							
補助教材等		Data Base 4800（桐原書店） 新・英語の構文150（美誠社）							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、他者を尊重し、聞き手・話し手・読み手・書き手に配慮しながら積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、幅広い話題について、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。また、時事問題や社会問題について読んだり、聞いたりしたことに基づき、発表、議論する力を育成する。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【知識】文章を読み、聞き、書き、伝えるために必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 【技能】情報や考えなどを論理性に注意して書き、伝える技能を身に付けている。	文章を読み、聞き、書き、伝えるために必要な概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができる。情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して書き、伝えることができる。	文章を読み、聞き、理解を深めるために必要な情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して書き、伝えようとしている。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査 - 宿題・課題プリント - 小テスト	- 定期考査 - 宿題・課題プリント	- 宿題・課題プリント - 小テスト - 授業への出席状況

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定時間	学習内容	評価規準
1学期	4	L1 How language shapes the way we think	8	- 世界の言語に関する資料や関連する情報を読み、聞き取り、論理的に書き伝える。 - 言語が思考にもたらす影響に関する講演について、概要、要点、詳細を聞き取り読み取る。 - 二言語使用に関する英文を読み、概要や詳細を聞き、聞き取り書き伝える。	- 言語と思考の関係について理解を深めるため、言語が思考にもたらす影響に関する講演を読み、概要や要点、詳細を捉えることができる。 - 言語が思考にもたらす影響やその事例について、情報や考え、気持などを論理的に注意して書き、話し、伝えることができる。
	5	L2 Weak robots	9	- AIや、ロボット（手助けを必要とするロボット）、アンドロイドに関する英文について、概要や要点、詳細を聞き取り、読み取る。また、自分の考えを書いたり発表したりする。 - フェイクニュースの危険性に対処法に関する英文を聞き、読み取る。	- 人間とロボットの関係について理解を深めるために、手助けを必要とする弱いロボットについての英文を読み、聞き取り、概要や要点、詳細を捉えることができる。 - 情報や考え、気落ちなどを論理的に注意して書き、伝えることができる。
	6	L3 Fake news is everywhere: Beware!	11	- フェイクニュースの例やSNSの功罪についての情報や考え、気持などを論理的に詳しく伝え、相手の意見を理解する。 - 最先端義足の開発者Hugh Herr氏の活動に関する英文を読み、聞き取る。	- フェイクニュースについての理解を深めるために、必要な情報を聞き取り、話の展開や意図を捉え、読み取ることができる。 - フェイクニュースの例やSNSの功罪について、情報や考え、気持などを論理的に注意して書き、話して伝えることができる。
	7	L4 Beyond what nature intends L5 How to beat procrastination	12	- 情報や考え、気持などを論理的に書き、伝え、自分の意見や根拠を説明する。また、相手の意見を理解する。 「先延ばし癖」の克服法に関する英文を読み、聞き取る。情報や考え、気持などを論理的に書き伝える。自分の意見を説明する。	- 最先端義足の開発について理解を深め、その未来について、必要な情報を読み、聞き情報や考え、気持などを論理的に書き伝えることができる。 「先延ばし癖」に関する情報や考え、気持などを読み、聞き取り、また論理的に書き伝えることができる。
2学期	9	L5 How to beat procrastination L6 Today's treasure, tomorrow's trash	13	「先延ばし癖」の克服法に関する英文を読み、聞き取る。情報や考え、気持などを論理的に書き伝える。自分の意見を説明する。 - 家電・電子ごみ問題・企業戦略と消費者運動に関する英文を読み、聞き取る。多様な語句や表現を用いて、情報や考え、気持などを論理的に書き伝える。	「先延ばし癖」に関する情報や考え、気持などを読み、聞き取り、また論理的に書き伝えることができる。 - 家電・電子ごみ問題について理解を深めるために、企業戦略と消費者運動に関する英文を読み、聞き取り、論理的に書き伝えることができる。
	10	客観式テキスト（未定）	15	高校英語の総復習として、リーディングやリスニング演習を通じて理解する。	- 高校英語の総復習を通して、文法・語法・表現力を養い、理解を深めることができる。 - リーディングやリスニング演習を通して、英文を聞き取り、読み、論理的に書き伝えることができる。
	11	客観式テキスト（未定）	14	高校英語の総復習として、リーディングやリスニング演習を通じて理解する。	- 高校英語の総復習を通して、文法・語法・表現力を養い、理解を深めることができる。 - リーディングやリスニング演習を通して、英文を聞き取り、読み、論理的に書き伝えることができる。
	12	客観式テキスト（未定）	13	高校英語の総復習として、リーディングやリスニング演習を通じて理解する。	- 高校英語の総復習を通して、文法・語法・表現力を養い、理解を深めることができる。 - リーディングやリスニング演習を通して、英文を聞き取り、読み、論理的に書き伝えることができる。
3学期	1	大学入試過去問演習	12	各大学の入試過去問を解き、文法・表現の復習及びリーディング演習を通じて理解する。	生徒一人一人の志望に応じて過去問演習や個人添削を行い、入試に対応できる。
	2	大学入試過去問演習	8	各大学の入試過去問を解き、文法・表現の復習及びリーディング演習を通じて理解する。	生徒一人一人の志望に応じて過去問演習や個人添削を行い、入試に対応できる。
	3		0		

学年	3	コース等	普通	教科	英語	科目	論理表現Ⅲ	単位数	2
使用教科書（発行所名）		be English Logic and Expression Ⅲ Smart（いいすな書店）							
補助教材等		入試必携英作文（数研出版） LISTENING ACE 10 UPGRADED 4訂版（美誠社）							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりするなかで、概念等として理解したり、技能を習得したりしている。	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、自らの学習を調整しようとしている。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	・定期考査 ・宿題・課題プリント ・小テスト	・定期考査 ・宿題・課題プリント ・授業中のパフォーマンス	・宿題・課題プリント ・授業への出席状況

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学 期	4	Lesson 1 The Easiest City to Live in Lesson 2 The Value of Libraries	4	○住みやすい街に関する文章について ・文章の情報を整理し理解する。 ・話したり、文章を書いたりする。 【文法】 ・動詞の形を意識する。 ○図書館の役割に関する文章について ・文章の情報を整理し理解する。 ・話したり、文章を書いたりする。 【文法】 ・動詞に続く要素を確認する。 ・伝えたいことに応じて、動詞に続く要素を正しく使う。	①動詞や助動詞について理解している。 ②動詞や助動詞を用いて、私たちが暮らす社会の未来について伝え合い、書く技能を身につけている。 ③私たちが暮らす社会の未来について、論理的に詳しく話し、書くことができる。 ④③について、自分の発話や書いたものを振り返り、改善点を見出している。
	5	Lesson 3 Improving our town	6	○町の活性化に関する会話について ・文章の情報を整理し理解する。 ・話したり、文章を書いたりする。 ○プレゼンテーション例の構成を確認して、情報を整理し理解する。 ○町の活性化について、実際にプレゼンテーションする。 【文法】 ・伝えたい意味に応じて、助動詞を正しく使い分ける。	①動詞や助動詞を適切に使うことができる。 ②私たちが暮らす社会の未来について、考えを英語でまとめることができる。 ③「街の活性化」をトピックにしてプレゼンテーションをすることができる。
	6	Lesson 4 Free Time Lesson 5 New Sports and Entertainment	5	○ひとり時間の過ごし方に関する文章について ・文章の情報を整理し理解する。 ・話したり、文章を書いたりする。 【文法】 ・伝えたい意味に応じて、適切な分詞構文を用いて文を作る。 ○新しいスポーツやコンサート様式に関する文章について ・文章の情報を整理し理解する。 ・話したり、文章を書いたりする。 【文法】 ・伝えたい意味に応じて、適切な副詞を用いて文を作る。	①形容詞や副詞を適切に使うことができる。 ②時間の過ごし方、スポーツや音楽などの娯楽といったトピックについて、考えを英語でまとめることができる。また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している。
	7	Lesson 6 Enriching Our Lives Lesson 7 A common Concern	7	○体育祭の企画に関する会話について ・文章の情報を整理し理解する。 ・話したり、文章を書いたりする。 ○スピーチ例の構成を確認して、情報を整理し理解する。 ○スポーツ／音楽の重要性について、実際にスピーチする。 【文法】 ・伝えたい意味に応じて、比較表現を効果的に用いて文を作る。 ○CO2排出問題に関する文章について ・文章の情報を整理し理解する。 ・話したり、文章を書いたりする。 【文法】 ・伝えたい意味に応じて、名詞に〈主語＋動詞〉を続けて説明を加える文を作る。	・「スポーツ／音楽の重要性」をトピックにしてスピーチをすることができる。また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している。 ①名詞の後に説明を加えることができる。 ②二酸化炭素排出問題について、考えを英語でまとめることができる。 ③二酸化炭素排出問題について、論理的に詳しく話し、書くことができ、自分の書いたものを振り返り、改善点を見出している。
2 学 期	9	Lesson 8 Maintaining the Ecosystem Lesson 9 A Sustainable Lifestyle	8	○海洋プラスチック汚染に関する文章について ・文章の情報を整理し理解する。 ・話したり、文章を書いたりする。 【文法】 ・伝えたい意味に応じて、関係代名詞や分詞を使って名詞に説明を加える文を作る。 ○よい未来のために若者が果たす役割について ・文章の情報を整理し理解する。 ・話したり、文章を書いたりする。 【文法】 ・伝えたい意味に応じて、前置詞を使って名詞に説明を加える文を作る。	①名詞の後に説明を加えることができる。 ②海洋プラスチック汚染について、考えを英語でまとめることができる。 ③海洋プラスチック汚染について、論理的に詳しく話し、書くことができ、自分の書いたものを振り返り、改善点を見出している。 ①気候、環境、エネルギーといった人類共通の課題について、英語でまとめることができる。 ②「世界のすべての原子力発電所を廃止すべきである」を論題にしてディベートをすることができる。
	10	Write to the Point	7	・文法、表現の復習 ・英作文演習	①中学・高校で学習する英文法・語法を理解し、それらを使って英語で話したり、文を書くことができる。
	11	Write to the Point	7	・文法、表現の復習 ・英作文演習	①中学・高校で学習する英文法・語法を理解し、それらを使って英語で話したり、文を書くことができる。
	12	文法・語法の復習 客観式テスト（未定）	7	・文法、表現の復習 ・英作文演習	①中学・高校で学習する英文法・語法を理解し、それらを使って英語で話したり、文を書くことができる。
3 学 期	1	文法・語法の復習 客観式テスト（未定） 記述式テスト（未定）	6	・文法、表現の復習 ・英作文演習	①中学・高校で学習する英文法・語法を理解し、それらを使って英語で話したり、文を書くことができる。
	2	文法・語法の復習 記述式テスト（未定）	5	・文法、表現の復習 ・英作文演習	①中学・高校で学習する英文法・語法を理解し、それらを使って英語で話したり、文を書くことができる。
	3		0		

学年	3	コース等	文系	教科	情報	科目	情報Ⅰ	単位数	1
使用教科書（発行所名）	高校情報Ⅰ Python（実教出版）								
補助教材等	2026情報Ⅰ 実践攻略大学入試共通テスト問題集（実教出版）								

1. 教科・科目の目標（学習目標）

（１） 情報活用の実践力…課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力
（２） 情報の科学的な理解…情報活用基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解
（３） 情報社会に参画する態度…社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査 - 小テスト・確認テスト - 宿題・課題プリント	- 定期考査 - 小テスト・確認テスト - 宿題・課題プリント	- 授業中の学習への取り組みの様子（観察） - 課題への取り組み状況・提出状況 - 振り返りシート・学習記録

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学期	4	第1章 情報社会と問題解決	2	・情報とメディア ・情報技術による社会の変化	・情報の特徴（残存性、複製性、伝播性）について、意味を理解している。 ・表現メディア、伝達メディア、記録メディアの特性を理解している。 ・PPDACなどの問題解決の手法について理解している。
	5		3	・問題の発見と解決 ・知的財産権 ・個人情報 ・情報に関する法規 ・情報セキュリティ	・問題や問題解決の意味、問題解決の基本的な手順について理解している ・情報セキュリティの意味やその対策について理解している。 ・不正アクセス禁止法や個人情報保護法などの法規について理解している。 ・情報漏洩とその対策について理解している ・プライバシー権、肖像権、パブリシティ権について理解している。 ・著作権と産業財産権における権利の取得の違いを説明できる。 ・著作者と伝達者の権利に関する法規やルールについて理解している。
	6	第2章 コミュニケーションと情報デザイン	3	・コミュニケーションとメディア ・情報デザイン ・Webサイトの設計	・伝播メディアや成果メディアについて理解している。 ・メディアリテラシーの考え方や情報の信憑性について理解している。 ・誤解を招く表現の他の例をあげて説明することができる。
	7		4	・アナログとデジタル ・情報のデジタル化 ・データの圧縮	・コンピュータの内部表現としての2進数をほぼ理解している。 ・表現できる情報の数とその単位についてほぼ理解している。 ・補数による負の数の表現についてほぼ理解している。 ・浮動小数点数の表し方についてほぼ理解している。
2 学期	9	第3章 コンピュータの仕組み	3	・ハードウェアとソフトウェア ・2進数の計算	・表計算ソフトウェアを利用してデータを表にまとめることがほぼできる。 ・表計算ソフトウェア上でグラフを使ったデータ処理をすることがほぼできる。 ・度数分布表やヒストグラム、箱ひげ図の読み方を理解することがほぼできる。
	10		4	・論理回路と論理演算 ・コンピュータの構成と動作 ・コンピュータの性能	・AND, OR, NOTの基本論理回路をほぼ理解している。 ・CPUと主記憶装置間の情報のやり取りや、CPUの処理速度がコンピュータの性能に大きく影響していることをほぼ理解している。 ・可逆圧縮と非可逆圧縮の違いについてほぼ理解している。
	11	第4章 プログラミングとシミュレーション	4	・アルゴリズムとプログラミング ・プログラミングの基本 ・関数 ・探索のアルゴリズム	・アルゴリズムの基本とプログラムの意味を理解している。 ・配列の役割や要素、添字について理解している。 ・複数の添字を正しく指定する方法を考えることができるか。 ・線形探索のアルゴリズムを理解しているか。 ・二分探索のアルゴリズムを理解しているか。 ・交換法による整列のアルゴリズムを理解しているか。
	12		4	・整列のアルゴリズム ・モデル化とシミュレーション ・確定的モデルのシミュレーション ・確率的モデルのシミュレーション	・選択法による整列のアルゴリズムを理解しているか。 ・確定的モデルのシミュレーションを行い、その結果から考察することができるか。 ・簡単な確率的モデルのモデル化やシミュレーションの手順を理解しているか。
3 学期	1	第5章 ネットワークと情報システム	3	・ネットワークとプロトコル ・インターネットの仕組み ・Webページの閲覧と電子メールの送受信 ・ネットワークとセキュリティ	・LANとWANについて、またネットワークを構成する機器やその役割についてほぼ理解している。 ・DNSについてその仕組みと役割をほぼ理解している。 ・ルータの役割やルーティング機能についてほぼ理解している。
	2				
	3				